

学校名	山形市立楯山小学校 山形市大字青柳字一本木64番地 TEL686-2006 FAX686-4183	校長	佐藤勝子									
		研究主任	荒井敦子									
研究主題	<p style="text-align: center;">気づき・考え・学び合う子どもの育成 (2年次) ～一人一人の言葉を大切にした授業作り～</p>											
研究主題設定の理由	<p>(1) 研究主題について</p> <p>① 学校教育目標を受けて 本校では、「いのち 夢 なかまをつなぐ 子どもの育成」を学校教育目標に掲げ次のような子どもの姿を目指し、教育活動を行っている。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">いのち</td> <td style="padding: 5px;">たくましく元気な子ども</td> <td style="padding: 5px;">(体)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">夢</td> <td style="padding: 5px;">学びに向かう子ども</td> <td style="padding: 5px;">(知)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">なかま</td> <td style="padding: 5px;">やさしく思いやりのある子ども</td> <td style="padding: 5px;">(徳)</td> </tr> </table> </div> <p>物事を多角的多面的にとらえ、気づき、考え、社会や他者と関わりながら自己実現しようとする子どもの姿を目指し、学校教育目標を具現化していきたいと考え、この研究テーマを設定した。</p> <p>② 昨年までの研究から 1年度目の昨年度の研究では研究主題の中でも特に「気づき」に焦点をあてて研究を行ってきた。 ア 主体的な学び、深い学びの原動力の「気づき」を引き出す場をいかに作るか イ 各教科に共通して「気づきの自覚化」「自己の学び、協働的な学び」を支える「言葉の力」の底上げ 上記の課題を克服するため、「言語能力を高める授業づくり」を大切に、研究を推し進めてきた。そこから、「気づき」は主体的な学びを生む原動力になり、その気づきは言語化されることで自覚化されること。さらには、児童の実態から教材や単元を仕組むことで、自分ごととして課題をとらえ、主体的な学びや気づきを生み出せることを改めて確認できた。また、一人一人の気づきを可視化(見える化)することで、比較、分類、合併などが始まり、新たな気づき(学び)を引き出せることもわかった。さらに「気づき」は授業時間のあらゆる場面(課題設定、整理分析、まとめ発表)で引き出すことができ、学びにつなげられること。特に「振り返り」では学びの自覚化と新たな課題への気づきと学びの構造化・連続性でとても大事であることを共通に確認できた。 そこで、今年度は昨年の研究を通して明らかになった「気づき」をもとに「児童がじっくり考えたり、主体的に思考したりする手立て」を研究と普通の授業の中から探っていきながら、研究主題に迫っていききたいと考えた。 以上が、本主題の設定理由である。</p> <p>(2) サブテーマについて 昨年のサブテーマ「言語能力を高める授業づくり」では研究主題に迫る1つのツールとしての「児童の言語」に着目して研究を進めた。本校の児童の実態として「読解力」「自分の考えを相手に的確に説明する力・考えをまとめて書く力」に課題がみられる。そこで教師自身も「言葉とは?」「学びと言葉の関係」「児童と言葉」など「言葉」を意識した単元づくりや教材研究を行ってきた。また、山形大学名誉教授の小川雅子先生から「言語能力を高める授業づくりの観点」として、1回目「内的言語活動を主体とする」、2回目「言語機能と言語活動」の2度の貴重なご講話をいただき、私たちの新たな言葉への視点が得られた。その印象に残ったキーワードとして、①児童にとっての「内的言語活動」「内言」を主体とする授業づくりの重要性②「言葉と心を乖離させない表現活動」③言語理解は児童と教師、児童と児童の「コード」と場面の共有④「生きて働く言葉」の授業づくりは児童と共に言語環境作りから⑤言語の4つの機能「認識」「思考」「伝達」「創造」を意識した授業づくりの構想、であった。 特に一人一人の児童の「内言」の充実、耕す、蓄えることが豊かな児童の表現を生み出すことを共通確認できた。研究を進めていく中で「児童にとっての言葉が、学びを深める上でいかに必要不可欠であるか」を実感することができた。</p>			いのち	たくましく元気な子ども	(体)	夢	学びに向かう子ども	(知)	なかま	やさしく思いやりのある子ども	(徳)
いのち	たくましく元気な子ども	(体)										
夢	学びに向かう子ども	(知)										
なかま	やさしく思いやりのある子ども	(徳)										

	<p>そこで、今年度も主題に迫る上で「言葉」を大切に研究を進めていきたいと考えている。特に、課題に向かっている一人一人の「内言」「経験やストーリー」「思考の流れ」「思い・ねがい」に耳を傾け、寄り添い、くみ取り、受け止めながら授業づくりやじっくり課題に向かう子どもの育成を目指して研究を進めていきたい。</p>
<p>めざす子どもの姿</p>	<p>「気づき、考え、学び合う」ということを、</p> <p>★生活の中で、自分の経験から疑問や課題、目標に気づき、立ち止まり、向き合い、自分なりに最後まで学びを進めていく子</p> <p>★自ら手を伸ばし体いっぱい使って夢中になって取り組む子</p> <p>★試行錯誤しながらも、課題解決に向かおうとする子</p> <p>★自分なりの方法ややり方で友達と相談しながら、様々に試しながらあきらめず取り組む子</p> <p>このような子どもの具体的な姿を「気づき、考え、学び合う」姿ととらえ、私たちはしっかり見取り、認めていくことで、子どもの内側からの自律的な成長を促していきたい。</p> <p>そして、その小学校で培った自己肯定感を土台として得た学びに向かう姿から、将来、他者と関わり、自分で道を切りひらいて幸せな人生を歩める大人になってほしいと願っている。</p> <p>小学校を卒業して目指す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活とかかわる様々な事象や概念と向き合い、その意味や価値について問いをもち、全身（目・手・頭・耳・心）を使ってかかわり、試行錯誤しながら対話し続けていく姿 ・自己肯定感をもち、異質性を尊重し、他者の声を聴く身体をもち、対話を通して、考えを高め、広げ、深めていく姿 ・身につけた資質能力を発揮しながら、主体的に自己の願いを実現していこうとする姿
<p>研究の内容</p>	<p>昨年の研究を通して明らかになった「気づき」をもとに「児童がじっくり考えたり、主体的に思考したりする手立て」「児童にとっての思考とは?」「各教科にとって児童に立ち止まってじっくり考える場面は?」「思考と考えることは、同じなのか、ちがうのか」「児童にとって夢中になって考えたり、じっくり思考を巡らせる教材開発、単元づくり」などの視点を取り入れて授業作りを行い、児童の実際の様子と照らし合わせながらその効果を検証していく。また、授業の中で一人一人の言葉を大切に実践をする。そして「自分なりの方法ややり方で友達と相談しながら、様々に試しながらあきらめず取り組む姿を授業の中でどう引き出していくか」「その時に一人一人の内言、外言をどんなふうを活かし目標に近づけていったか」など、全教師が日々の授業で実践を増やしていきたい。</p> <p>また以下の第一回研究全体会で先生たちと出合った「子どもたちの思考する姿・言葉」「思考する姿を引き出した手立て」はどうであったのか検証し、研究を深めていく。</p> <p>子どもたちが思考する・考える姿・言葉とは?</p> <p>課題に出会った時の思考 「あれ?」「やりたい!」 「なんで?」「どうして?」 「できそう!」</p> <p>課題から予想する思考 「あーもしかして」「たぶん」 「きっと~なんじゃない?」 「まえのと同じ?ここが違う」</p> <p>解決方法・手段・段取りを見通す思考 「~をつかって、できそう」 「こうするとできそう」 「ほかの方法でもできそう」 「どうやって?」</p> <p>★課題に対する思考 「んー」「・・・」 「ここまでではできた、わかった」 「ここから、わからない」「できない」</p> <p>★思考の共有から思考を深める 「同じだね」「方法は違うのに同じになった。」 「似てるけど、ちょっと違うね」 「なかまわけできそう」 「合体すると新しい考えができた」 「共通して言えることは・・・」 「どうして、そう考えたの?」 「どこから、わかったの?」</p> <p>思考する子どもの姿・言葉を引き出す手立て ←発達段階、子どもの実態に合った課題 ←解けそうで解けない問題を提示 ←今できていること、わかっていることとまだできないことわからないことに気付ける仕掛け ←必要感が自然に感じられる課題 ←既習事項よりレベルアップした課題 ←学習の足跡が分かる掲示、ワークシート ←自分のそれまでの学びを見返せるノート ←それまでの問題解決の方法（図・言葉・式・表）などの蓄積 ←タブレット、ワークシート、ノート、ホワイトボードなど、学習環境 ←情報収集の手順 ←考える形態（1人、ペア、グループ） ←時間、場の保障 ←課題に挑戦し、自分なりに考えを出せる学級の学びの土壌づくり ←一人一人の思考の見える化（可視化） ←聞き合う（自分事として知りたい）学びの集団を育成する ←思考を整理する問い返しを児童ができるように育てる ←まちがえやわからないことを素直に口に出せる人間関係作り ←知識と知識、一人一人の思考から、さらに教科の本質に迫る深い学びを獲得できるコーディネイト力</p>

<p>研究の方法</p>	<p>① 研究授業を通して、授業づくりのあり方について考えていくようにする。 ② 研究授業、事後研究会に講師を招いて指導助言を受け、実践と理論研究を深めていく。 ③ 研究推進委員会、研究全体会を年間計画に位置付け、定期的に行っていく。授業研究会における成果と課題を確認したり、研究の方向性を確かめたりしながら、職員間の共通理解を図っていく。</p> <p>研究授業について</p> <p>① 全員が研究授業を行う。 ② 事前研は学年部で行う。 ③ 事後研は全体で行う。 ・司会、記録は教科部で行う。事後研の内容を受け、担当者が「授業研だより」を1週間以内に発行し、次回の授業研に生かせるようにする。 ・事後研を行う場所は授業を行った教室とし、可能な限り板書も残しておく。 ・原則としてワークショップ形式で行う。</p> <p>④ 座席表を準備し、前時までの学びやみとりの履歴、本時の支援計画などを記入する</p>																																																							
<p>研究の計画</p>	<p style="text-align: center;">R5年度 校内研の日程について</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">4月5日</td> <td style="width: 10%;">水</td> <td style="width: 25%;">研究推進委員会</td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td>4月6日</td> <td>木</td> <td>校内研究日①</td> <td>研究の方向性について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4月26日</td> <td>火</td> <td>校内研究日②</td> <td>カリキュラムについて</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6月26日</td> <td>月</td> <td>校内研究日③</td> <td>授業研①かえで</td> <td>授業研②いずみ</td> </tr> <tr> <td>7月10日</td> <td>月</td> <td>校内研究日④</td> <td>授業研③1年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7月～8月</td> <td></td> <td>校内研究日⑤</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11月13日</td> <td>月</td> <td>校内研究日⑥</td> <td>授業研④2年</td> <td>授業研⑤5年</td> </tr> <tr> <td>11月27日</td> <td>月</td> <td>校内研究日⑦</td> <td>授業研⑥3年</td> <td>授業研⑦4年</td> </tr> <tr> <td>12月4日</td> <td>月</td> <td>校内研究日⑧</td> <td>授業研⑧6年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2月7日</td> <td>水</td> <td>校内研究日⑨</td> <td colspan="2">研究のふりかえり</td> </tr> <tr> <td>3月19日</td> <td>水</td> <td>校内研究日⑩</td> <td>研究のまとめと来年度の方向性について</td> <td></td> </tr> </table>	4月5日	水	研究推進委員会			4月6日	木	校内研究日①	研究の方向性について		4月26日	火	校内研究日②	カリキュラムについて		6月26日	月	校内研究日③	授業研①かえで	授業研②いずみ	7月10日	月	校内研究日④	授業研③1年		7月～8月		校内研究日⑤			11月13日	月	校内研究日⑥	授業研④2年	授業研⑤5年	11月27日	月	校内研究日⑦	授業研⑥3年	授業研⑦4年	12月4日	月	校内研究日⑧	授業研⑧6年		2月7日	水	校内研究日⑨	研究のふりかえり		3月19日	水	校内研究日⑩	研究のまとめと来年度の方向性について	
4月5日	水	研究推進委員会																																																						
4月6日	木	校内研究日①	研究の方向性について																																																					
4月26日	火	校内研究日②	カリキュラムについて																																																					
6月26日	月	校内研究日③	授業研①かえで	授業研②いずみ																																																				
7月10日	月	校内研究日④	授業研③1年																																																					
7月～8月		校内研究日⑤																																																						
11月13日	月	校内研究日⑥	授業研④2年	授業研⑤5年																																																				
11月27日	月	校内研究日⑦	授業研⑥3年	授業研⑦4年																																																				
12月4日	月	校内研究日⑧	授業研⑧6年																																																					
2月7日	水	校内研究日⑨	研究のふりかえり																																																					
3月19日	水	校内研究日⑩	研究のまとめと来年度の方向性について																																																					
<p>研究組織</p>	<p>【研究推進員】 校長・教頭・教務主任・研究主任・研究副主任・前研究主任 (校長・教頭・佐藤・荒井・亀井・横川)</p> <p>【役割分担】</p> <p>研究資料提供・指導案の提案・研究紀要の提案・・・授業研究部 研究授業講師渉外(派遣申請作成・発送)・・・教頭 各研究会情報の案内・・・亀井 学力実態調査、中学校との連携・・・佐藤 先行研究資料収集・・・荒井 事後研準備・・・亀井</p>																																																							